

## 私の考える普及活動

日野農業改良普及所 加賀田 淳

私が普及員になったのはわずか1年前のことです。短いながらも普及活動で感じたことを寄稿いたします。初めての担当地区である日南町を含む日野地域はまさに中山間地の農業地帯であり、全国的に問題視されている高齢化や人口減少が進み限界集落化や地域消滅の危機にある地域といえるのだと思います。この地域で作物担当をしていますが、日々の活動を通じて、水稻作と地域農業というテーマの枠組みの中での経営理念や信念を農業者の皆さんからお聞きします。これは作物担当であるからこそだと思います。それらから「持続可能な農業によって地域が存続していくこと」と「儲かる農業経営の確立」の2つが自らの普及員としての大きなミッションと感じています。



日南町内の地域農業の現状に少し触れておきますと、歴任の普及員・関係機関の方々の活躍もあり、県内有数の集落営農等の組織化・法人化が進む地域です。この取り組み成果から考えるに、「農業継続によって地域存続を強く希望している」「このままでは地域存続が難しい」という地域的意識が成熟しつつあるのだと思います。実際、日頃の活動でお世話になっている農業法人では「農業で地域を守る」という明確な経営理念を掲げ活動している組織があります。この経営理念だけなら県内外を問わずたくさん存在するのですが、この組織は地域外からの若年層正規雇用、先進技術の導入などの積極的な行動により着々と経営理念を実現させるだけの行動をおこなわれています。この原動力は第一に経営者の並々ならぬ地域存続への思いと危機意識があるからだだと思います。このような組織が地域に根付いてきていることは普及員としては嬉しく思うと同時に、それらの組織に応えられるだけの普及活動をしなければならないという使命感を覚えます。また、このような組織が確立しておらず、地域の未来が十分描けていない地域に対しては、関係機関が連携して「考える場、話し合いの場」を提供する取り組みを続けていかなければならないのだと思います。

その地域存続というキーワードを実現する手段として「儲かる農業」というものが必然的になってくるのだと思います。収益性の観点では水稻経営は儲からない分野というイメージが一般的なのかもしれません。実際、そのような農業を取り巻く情勢の中で、どのような営農活動をすれば良いかわからないということを直接耳にしたり、私自身も感じる場合があります。その時には、「相手（農業者）の経営理念や信念を改めて思い出すこと」「相手との対話の中で、その奥にある本音を聞きだすこと」を心掛けて普及活動をしています。これは行動の原点には必ず思いがあり、その実現のために望ましい行動があるはずだと考えているからです。その地道な活動の積み重ねの延長線上に地域として思い描いた理想の地域像に少しでも近づくことが出来たなら、私自身、普及活動におけるやりがいを初めて感じるのではないかと思います。